

## 新発田市 平成 30 年度 第 3 回定例記者会見

1 日 時 平成 30 年 6 月 1 日（金）午後 1 時 30 分～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

- 新発田市版「ヘルプカード」の配布開始
- 新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏婚活支援事業
- 「食の循環によるまちづくり」の新たな取組がスタート
- 旧新潟製油新発田鉱山の廃坑に伴う要望書の提出
- 小・中学校の防災教育について
- 「しばたあやめまつり」及び「あやめ茶会」
- 「とらい夢カップ しばた かけっこチャレンジ 2018」
- 「グリーンカーテンエコプロジェクト 2018 in しばた 苗植え式」
- めざせ 100 彩「しおかぜウオーク」
- 「さかなまつり 2018『海岸清掃 & 地引き網体験会』」
- 「落谷虹児の花嫁展」
- 市島邸企画展「アートギャラリー市島邸」
- 「新発田あやめ寄席」
- 「手工芸・水墨画展、いきいき作品展」
- 市民教養講座「金魚台輪をつくろう！」
- 「ライトミュージックコンサート 2018」
- 「市民コンサート 2018」
- 札の辻広場のイベント「しばた軽トラ市 ～札の辻マーケット～」
- 「歯科無料健診と相談」

### あいさつ

- 気候としては良いはずですが、どうもはっきりしない天気が続いています。  
5 月の中ごろには、秋田で集中豪雨がありましたから、天候自体も異常気象なのかなと思います。
- 心配なのは、田んぼで分蘖<sup>ぶんけつ</sup>が始まってもいいはずなのに、稲の生育が小さいのではないかという気がします。
- これから持ち直して、少なくとも稲に良い影響となるような、天候になってほしいと思います。

○先日、米倉のバイオマスの関係で、ベンチャー企業の方が来られたときに、そのアドバイザーなのかもしれませんが、オックスフォード大学のトンプソン教授が同行されていました。

○たまたま、高校生が勉強に来ていたので、「高校生が勉強に来るような市役所は世界にない」とお褒めの言葉をいただき、たいへんうれしい気持ちになりました。

○先日は、札の辻広場でプロレスがありました。細長い場所なので、脇の方の客席が取れなかったのですが、それでも充分採算的にもペイできるほどの観客に来ていただきました。

○ヨリネスしばたの多様性を、少しずつ市民の皆さんに認めていただいていると、うれしく思っています。

**それでは、会見項目を説明いたします。**

**最初に、新発田版「ヘルプカード」の配布開始について。**

○「ヘルプカード」は、障がいのある方が、自分の情報や配慮してほしいことなどを、あらかじめカードに記入しておき、いざというときに提示することで、必要な支援を周囲に求めやすくするものです。

○新発田市版「ヘルプカード」は、全国的に浸透しつつある東京都の標準様式を採用し、県内で初となる視覚障がいのある方に配慮した点字付きのものと合わせて、2種類のカードを作成しました。

○本日、6月1日から市内の公共施設で配布を開始するとともに、チラシの全戸配布や、医療機関、障がい者の関連施設などへのポスターの掲示によって、周知を図ることとしています。

○「住みよいまち日本一」を将来都市像に掲げる本市としては、「ヘルプカード」の普及によって、障がいのある方の安心・安全や、障がいに対する理解促進を図り、障がいの有無にかかわらず、だれもが暮らしやすいまちを目指したいと考えています。

○これは、議会の一般質問で提案いただいたものを具現化したものです。

## 次に、今年度の婚活支援事業について。

- 当市では、昨年度から胎内市・聖籠町と協力して、定住自立圏事業として婚活支援を行っており、今年度は、従来のイベントやセミナーに加え、新たに2つの事業に取り組みます。
- 1つ目の「恋かふえ in 新発田」は、7月から来年2月までの毎月第一日曜日に、イクネスしばたで、専門のカウンセラーが婚活や結婚に関する相談に無料で応じるものです。
- その名のとおり、カフェに訪れるような感覚で、「誰もが気軽に相談できる」がコンセプトです。
- 異性との出会いから交際、結婚まで、利用者一人ひとりに寄り添って、きめ細かく相談に応じ、若い世代が一步前へ踏み出すきっかけになればと思っています。
- 2つ目は、「ハートマッチにいがた in しばた」です。
- これは、新潟県が運用している婚活マッチングシステムを活用して、1対1の出会いの機会を提供する「ハートマッチにいがた」への会員登録とお相手の閲覧を行うものです。
- 今年度は、先ほどの「恋かふえ」と同日に、イクネスしばたで開催することとしており、「ハートマッチにいがた」に登録した人が、「恋かふえ」にも立ち寄るなど、両者の連携による相乗効果にも期待しています。
- 常設されている新潟市、長岡市、上越市以外で、「ハートマッチにいがた」が定期的で開催されるのは、県内で当圏域が初めてであり、新潟県からも婚活支援の取組が高く評価され、期待されているものと考えています。
- 今後も、多様化する婚活のニーズに応えるため、大勢の方が参加するイベントと合わせて、こうした1対1の出会いの機会を提供し、少しでも圏域内の成婚率を高めていきたいと考えています。

## 次に、「食の循環によるまちづくり」の新たな取組について。

○6月3日（日）に菅谷地区で、地元の農産物などを販売する「すがたにマルシェ」が開催されます。

○これは、同地区のグループ「<sup>ア</sup><sup>ボ</sup><sup>デ</sup>ABODEすがたに」が、地域活性化のための新たなモデル事業の先駆けとして取り組むものです。

○「<sup>ア</sup><sup>ボ</sup><sup>デ</sup>ABODEすがたに」のメンバーは、結婚して菅谷地区に移り住んだ女性が中心です。

○良い意味で「よそ者」の視点で、菅谷地区の歴史や文化、農産物などを、見たり、聞いたり、食べたりする中で、「なぜ、こんなに良いものをもっとアピールしないのか」という気持ちが湧き上がり、自分たちの手でその魅力を引き出し、PRしたいとの思いから結成されたと聞いています。

○同グループからは、イベントに留まらず、菅谷リンゴやサトイモなど、地区の風土に適した農産物を活用して、将来的には栽培面積や生産量の拡大、加工品の製造、空き店舗の直売所としての活用などを行いたいとの提案を受けています。

○この提案は、当市が進める「食の循環によるまちづくり」の考え方を、地区の特性を活かした持続可能な活力ある地域づくりに結び付けることができるものと考えています。

○そこで、県新潟地域振興局とも連携しながら、新たなモデル事業として取り組を進めたいと考え、市議会6月定例会に同事業の予算議案を提案しました。

○今後、このモデル事業を検証する中で、このような地域特性を活かした活性化の取組を、他地区にも広げていきたいと考えています。

○食の循環は、どちらかと言えば教育・学校現場でやっていましたが、それを地域へ、そして、この菅谷の検証によって、他の地域にも食の循環の輪を広げていきたいと考え、モデル事業として取り組むものです。

## **次に、旧新潟製油新発田鉱山の廃坑に伴う要望書の提出について。**

○本日午前10時に、新井田農家組合長及び新発田土地改良区理事長の連名で、旧新潟製油新発田鉱山の廃坑に伴う要望書が提出されました。

- 昨年 2 月 27 日に、中田町地内にある 2 つの<sup>はい ゆ せい</sup>廃油井のうちの 1 つから、原油が噴出し、周辺の田や用水路に漏えいする事故がありました。
- 本来は、鉱業権者である新潟製油株式会社が廃坑の作業をすべきところですが、今年の 3 月 20 日付けで、同社が破産手続きの廃止となったため、この度、市に廃坑作業をするよう求める要望書が提出されたものです。
- 当市としても、周辺住民の安心・安全の確保、周辺環境の保全を図るため、一刻も早い廃坑作業が必要であると考え、廃坑に要する経費を予算議案として、市議会 6 月定例会に提案しました。
- いずにしても、最も迷惑をこうむっているのは周辺住民です。当該案件が、長期化せずに解決に向かうよう努めたいと考えています。
- 議会に予算案件を上げましたが、国と一緒にやってやらざるを得ないということです。先ほど申し上げた通り、当該企業が破産しているので、このままにしておく住民が迷惑をこうむるということになります。
- もともとは、戦前の国策でやったことでもあるので、国と一緒にやっていきたいと思っています。市長会で上京した際にも、経産省、農水省に向いて、解決に当たりたいと考えています。

## **次に、小・中学校の防災教育について。**

- 6 月から 9 月までの間、市内の全小学校 19 校が、青少年宿泊施設「あかたにの家」で、「防災キャンプ」を実施します。
- 「防災キャンプ」は、主に小学 4 年生を対象に、水に流された時の対処法を学ぶ「川流れ体験」や、子どもたち自らが運営の役割分担をしながら宿泊する「避難所体験」など、様々な体験を通して、災害に対する知識や互いに協力することの重要性などを学ぶものです。
- また、中学校 5 校では、全校生徒を対象に、「中越地震震災メモリアル施設」での現地学習や「非常時体験ワークショップ」など、各校が工夫を凝らした防災学習を今年度初めて実施します。

○次年度以降、全 10 校での継続実施も視野に入れており、小学校時代の「防災キャンプ」での経験と合わせて、災害に対してより強い意識づけができるものと期待しています。

○今年度のまちづくりの重点には、「教育の充実」を掲げており、学力の向上はもとより、こうした防災教育を通じて、子どもたちの「生きる力」を育んでいきたいと考えています。

### **次に、市の花「アヤメ」をテーマにしたイベントを紹介します。**

○6 月 8 日（金）から 7 月 1 日（日）まで、恒例の「しばたあやめまつり」を開催します。

○間もなく、新発田市の花「アヤメ」が見ごろを迎えます。日本 4 大あやめ園の一つである「五十公野公園あやめ園」では、約 300 品種 60 万本のアヤメが咲き競います。

○夜にはライトアップも行われ、昼間とは一味違った幻想的な風景がお楽しみいただけます。

○また、イベント会場では、物産販売やよさこいの発表が行われるほか、市内の割烹 9 店舗が「あやめ<sup>じょう</sup>城会席弁当」を提供する「あやめおごっつおう祭り」も同時開催されます。

○6 月 16 日（土）・17 日（日）には、五十公野御茶屋と旧県知事公社記念館を会場に「あやめ茶会」を開催します。あやめまつりの会場と茶会の会場を結ぶシャトルバスも運行します。

○ぜひ、多くの方に当市自慢のアヤメをご覧いただきたいと思っています。

### **次に、ユニークなスポーツイベントを紹介します。**

○6 月 17 日（日）、五十公野公園陸上競技場で、「とらい夢カップ しばた かけっこチャレンジ 2018」を開催します。

○これは、50メートルまたは100メートルの距離を走り、「写真判定装置」を使用してタイムを計測する「かけっこ大会」です。

○普段は入ることのできない陸上競技場のトラックと本格的な「写真判定装置」を使って、陸上選手の気分を味わうことのできるユニークな企画で、参加者には、記録証とゴール時の判定写真を贈呈します。

○当市が進める「スポーツで子育て・定住促進応援事業」の考え方とも共通していますが、こうした機会を通じて、身近にあるスポーツ施設で運動を楽しんでいただくとともに、子どもたちの体力向上につながることを期待しています。

このほかの情報としては、園児たちが地球温暖化防止に一役買う「グリーンカーテンプロジェクト」の<sup>なえう</sup>苗植え式があるほか、藤塚浜の潮風を感じながら楽しむことができる「めざせ100彩『しおかぜウォーク』」、「さかなまつり2018『海岸&地引き網体験会』」があります。

また、芸術や文化、音楽にふれるイベントとして、「蒨谷虹児の花嫁展」や「アートギャラリー市島邸」、「新発田あやめ寄席」があるほか、市民の皆さんが参加できる「<sup>しゅこうげい</sup>手工芸・水墨画展、いきいき作品展」や市民教養講座「金魚台輪をつくろう!」、「ライトミュージックコンサート2018」、「市民コンサート2018」があります。

さらに、恒例の「しばた軽トラ市」と「歯科無料健診と相談」があります。

ぜひ、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田を盛り上げていただきたいと思います。